



第2次下田市観光まちづくり推進計画



令和3年3月
静岡県下田市

はじめに

観光のまち、下田市。

美しい自然と黒船来航で全国に有名な私たちのまちは、今年でちょうど市制施行50周年を迎えます。

昔から海運の要衝として、「出船入船三千艘」、「伊豆の下田に長居はおよし、縞の財布が軽くなる」とうたわれた下田は、昭和に入ると下田ドックや漁業のまちとして栄えました。その後、産業の中心は観光に移り、温泉、海水浴、海の幸といった自然の魅力に加え、ペリーロードなどの景観も評判となって国内外から多くの観光客が訪れるようになりました。



こうした中、平成25年に策定されたのが第1次下田市観光まちづくり推進計画です。

平成25年度から令和2年度までの8年間を計画期間とするこの計画では、4つのプロジェクトを掲げていました。美しい里山、世界一の海、美味しい食を磨き上げ、さらにそれらを30カラースにより発信するという構成です。これらのプロジェクトは、官民が連携する中で素晴らしい成果を実らせる結果となりました。自然体験型の観光をお客様に提供する窓口としての「し～もん」の設立、おいしい金目鯛料理ブランドの「きんめがど～ん！」全26品の認定、さらに下田市の魅力を30種に取りまとめたステキなPRパンフレット「下田30カラースリーフレット」等々がそうです。下田の基幹産業である観光を戦略的に進めてまちづくりにつなげようというその試みは、こうして、下田の新しい魅力やツールとして今も下田の観光を支えています。

そして、令和3年の今、私たちの下田市はどうか。

少子高齢化は以前にも増して速度を上げ、さらには新型コロナウイルスという未曾有の危機に直面しています。この厳しい環境のなかで、このまちの持続可能性をどのように確保するか。そして、そのために観光はいかにして進められるべきか。これらの命題に正面から向き合い、策定したのが今般の第2次下田市観光まちづくり推進計画です。

その中心は、「美しい海」、「開国の歴史」そして「人の流れ」の3つです。

数多くのアンケートを実施し、そのデータに基づき、どんなところを磨くべきか検討してきた結果、上記の3つに絞り込みました。

今すでにここにある価値、さまざまな資源がある中、特に「美しい海」と「開国の歴史」に光を当て、磨き上げることで下田市の観光を活性化させ、さらに「人の流れ」を円滑にすることで、その先にある、このまちに暮らす市民の自信や誇りを高めることを目指す。そうして、結果的にこの下田市の持続可能なまちづくりへとつなげよう、というものです。

したがって、この計画は単に観光の各種事業を進めるというものでなく、「観光でまちづくりを進めるのだ」という一歩進んだ視点に立って策定されました。そしてそのためには、これからチャレンジングな試みが必要です。市民の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

結びに、本計画策定にあたり、熱心なご議論を賜りました下田市観光まちづくり推進本部会及び下田市観光まちづくり連携推進幹事会の皆様をはじめ、関係する市民や団体の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和3年3月

下田市長

松本正一郎